

共通論題

司会兼討論：竹中千春（明治学院大学）

報告 1：高原明生（東京大学）

報告 2：木宮正史（東京大学）

報告 3：金子芳樹（獨協大学）

報告 4：竹中千春（明治学院大学）

「2017：不確実性の時代のアジアと世界」

2017年1月トランプ政権が誕生したことは、欧州でのブレグジットなどと相まって、グローバル化の進行に伴う格差問題などの諸問題、そして地域統合にともなう地域秩序と国益間の調整などに疑義が呈されたことを意味した。これは今後の国際社会の行く末を考える上で大きな変化であり、不確実性がましたといえることができるだろう。

しかし、アジアではグローバル化や地域統合の状況、また社会内部の格差問題の状況などにおいて欧米とは必ずしも一致しない状況がある。これは冷戦の形成過程とともに、1989年の冷戦の終結以後の政治過程とも関係している。グローバル化などの世界的な現象とともに、世界の各地域の多様な歴史過程もまた世界史の重要な一断面である。

では、昨今の欧米での「不確実性」は果たしてアジアにいかなる影響を与えていくのか。グローバルな現象として語られる「不確実性」のもつ、アジアにおける意味について議論し、そこからアジアの立ち位置について考えるのがこのセッションの目的である。

2017年は昨今おこなわれた韓国の大統領選があり、また秋には中国で習近平体制第二期の人事が実施される。また、東南アジアではASEAN50周年にあたり、インドは建国70年を迎えて大国としての地位を築こうとしている。他方、トランプ政権がどの程度ASEANやIndia-Pacificに関与するのかという課題も存在するし、中東情勢も予断を許さない。こうした状況を踏まえ、このセッションでは、グローバルな情勢を念頭に置きつつ、中国、韓国、東南アジア、インドのそれぞれの観点を踏まえつつ、アジアの側から不確実性の時代と言われる2017年の世界を考察してみたい。